

2020年6月19日

1 勧告

クロージャー艦長 艦長に復職させず。 事績は今後肯定的に扱われるべき。

その他

2 調査の結論

- 1) ダナン寄港の判断は妥当であった。しかし感染の原因はダナン寄港と推測される。
- 2) 艦長のダナン出港後3月23日までの措置は妥当だったが、24日以降の措置は不適切であった。
- 3) 艦長のグアム寄港後の3月29日の船内隔離区域からの乗組員の解放の措置が感染拡大に繋がった。
- 4) 検査体制、隔離施設等の問題による乗組員の下船の遅れが感染拡大に繋がった。
- 5) 最初に第7艦隊司令官が、グアムのホテル収容案よりも、沖縄に移送する案を優先的に検討したことが、艦長らに不信感を発生させ、行動を遅らせた。
- 6) 艦長のメールは不適切かつ効果なく、有害であった。

その他

3 明らかになった事実

- 1) 1月17日 原子力空母ルーズベルト サンディエゴ出航
- 2月2日 ノロウィルスの感染者 感染防止対策
- 2月7日 グアム入港
- 2月21日 ブルーリッジと、揚陸艦アメリカ攻撃部隊が、タイ訪問。
- 2月25日 ベトナム国内では16名の感染者。全てが退院した。
CDC在ベトナム担当者に照会。
コロナ症状を乗船前と、乗船1週間後にチェックする計画。

☆2月に、第7艦隊は、艦船でコロナ感染者が大量発生した場合の寄港地として、
ホワイトビーチが最適だが、政治的に難しい。
横須賀は、収容できる施設が限られている。
グアムと想定したが、政治的問題は残る。

3月4日インド洋司令部はベトナム黄色。国務省はレベル1。ベトナム渡航制限はなし

2) 3月5日ダナン入港、ルーズベルトとバンカーヒルの乗組員はホテルに宿泊。

(訪問はホテルと制限された場所のみ。)

ダナンでの交流行事

7日ベトナム人記者のルーズベルト乗艦訪問。(5・6日はバンカーヒル)

3月8日、感染者の出たヴァンダホテルに宿泊した37名、訪問した2名をチェックし、隔離する。

3月9日ダナン出航

3) 9日から23日までにクラーク基地からの航空便で29人が到着したが、検査で陰性

(後で4人が陽性となったが、調査で感染源とはなっていない。)

出港後食堂での食事供給の仕方は一部セルフサービス中止。

ジム、売店、図書室、床屋、教会は普通のまま。

社会距離はとらず、不可能と考える。

3月14日 隔離した39人は全て陰性

3月17日 艦長グアム上陸は3ケース 通常、基地内、接岸+制限区域のみ。

3月22日 39人は陰性、隔離から解放される。

4) 3月9日から23日までに9名の有症状者があった。

3月24日以前に、3名の乗組員が、味覚臭覚障害のみ1週間と申告、不確かと判断。

3月24日、3名が陽性の結果。2名が第11航空部隊、1名が原子炉部門。

39名の隔離された乗組員との濃厚接触者ではない。

— USAトゥディ 8名陽性と報道。

4月3日グアム寄港の予定を、全速力で27日到着を目指す。

ダイヤモンドプリンセス等のクルーズ船との違いを分析 個室大部屋、年齢構成

3月25日、ヘリで陽性の4名を陸上に移送。

船内一部施設閉鎖。しかし社会的距離はとられず。→不適切。

グアムに4000室が個人の2週間隔離のために必要と第7艦隊に伝えるが、

接岸のみなので、できないとの回答を受ける。

3月26日 陽性者が8名から33名に。

基地司令官、第9空母攻撃部隊司令官、陽性者の全員と、艦の作戦行動に必要な原子

炉管理要員20名も、真先に下船、隔離させる方針。

艦長はグアム到着後、乗組員を全員下船させるとメール。

太平洋艦隊は、乗組員を全員検査する計画。

☆ 第3遠征軍（沖縄海兵隊）が、第7艦隊に対して、沖縄の5000室をルーズベルトの隔離室に提供すると提案する。

5) 3月27日、グアムに入港。36名の陽性者が艦内に。

☆ 3月27日までに、横須賀のロナルドレーガンでは3名の陽性者が発生していた。

感染者、有症状者、原子炉要員等264名がまず下船して、隔離室に移動。

他は計画なし。第7艦隊医官は、第9空母司令官に下船前全員検査を命令。

第7艦隊は、できるだけ早く、多くの乗組員を下船させ、全員を検査すべき。あるいはできるだけ早く全員を検査して、下船させるべき。

太平洋艦隊は検査を、第7艦隊は下船を、ルーズベルト艦長は個室を、とバラバラ。

隔離スペースと、検査体制の不足が、非感染乗組員の下船を遅らせることとなった。

6) 3月28日 46名が陽性。一部船外の臨時野外宿舎に、船の一部が隔離スペースに乗組員が下船すると、居室と食料の問題が起こった。

第9空母司令官は、まず下船させ、その後に検査の方針決定。

コロナ検査キットが到着したが、12-14日の準備が要求されていた。

(バッチテストの不完全性)

艦長は、食料が確保されるまでは下船させるべきではない。

ホテル個室に隔離することが最も迅速で効果的な方法と考える。4500の個室必要

第7艦隊は下船前に検査が必要と説明。検査可能数。理解に混乱。

2日間、何が起きているのか、きちんと認識していなかった。

☆第7艦隊司令官は乗組員を沖縄に空輸する計画を命令し、第3遠征軍に、普天間基地と、キャンプパトラの宿舎を空けるように求めた。

ルーズベルト艦長は沖縄基地司令官に、5000室を求め、500室もないができることはするとの回答。

★マリアナ司令部がグアム政府と、民間ホテル利用につき交渉開始

7) 3月29日 53名が陽性。ルーズベルト医官がコロナに敗北とメール。

船内には4389名が残る。

艦長1000名以上が艦内の後部隔離スペースにいるのは非効果的で隔離を停止する

太平洋艦隊と第7艦隊には知らされず。

→感染拡大に繋がった。

☆第9空母司令官は、グアムホテル利用を提案するが、第7艦隊は沖縄案を待てと回答

太平洋艦隊司令部は、9時間の空輸による感染拡大と日本政府との摩擦を原因に拒絶

★グアムホテルは すでに535室入居、1150室が入居可能。

(基地内施設は隔離が不十分でガイダンスを充足していない。)

8) 3月30日

① 艦長が上層部にメール 全ての乗組員に、速やかに、隔離室を。

② 原子炉部門長が、艦外の施設、部門に懸念を表明。

→サンフランシスコ・クロニクルの記者3月31日の記事を、4月1日0400に発表

9) 3月31日

③ 医療スタッフが、下船させるべきと、多数関係者にメール

4500のベッドが必要。 (50名の死者の可能性。)

太平洋艦隊がグアム政府とホテル交渉中であった。

地元団体が、海軍感染者を基地内に止めるよう、知事に要請。

10) 4月1日グアム政府知事が、グアム入国を許可。

4月2日 4000室のホテルの使用許可。入居開始。

→ 下船が遅れたのも、感染拡大に繋がった。

メールは影響を与えなかった。

4月3日 艦長解任される。

乗組員が見送り、SNSにアップされる。

45名の乗組員が、海軍病院で治療を受ける。6名が酸素吸入、

4月13日 1名が死亡。

11) 全艦で1248名が感染した。

(海軍全体で50隻でコロナ感染者が発生。)

(総括)

感染原因、出航時のチェック漏れ。

狭く密な艦内での感染の急速な拡大。

再寄港時の艦外隔離施設の不足、政治及び軍事との矛盾、混乱による更なる感染の拡大

その混乱は組織的なもので、艦長ら現場責任者の責任に帰されるべきではない。

感染情報公表、共有の必要性